



経営探訪
Management Report

株式会社
ホクシンエレクトロニクス

偏りを持たず、リスクを分散。 確固たる経営基盤を築くための努力を。

同一分野には偏らない
幅広い業種との取引と
自社製品の開発にシフト

秋田市内の住宅街に、4つの工場を構える株式会社ホクシンエレクトロニクスは、今年で創業32年を迎える電気電子部品の製造を行う企業である。リーマンショックのころには業績が悪化したものの、現在は見事に復調。2020年には新工場に本社機能を移し、現在約290名あまりの従業員を抱え、幅広い分野の部品製造を行っている。コロナ禍を経て、堅実な経営を続けている代表の佐藤宗樹さんにお話を伺った。

主に通信機器のアンテナを製造
時代の流れに乗り、好調なスタート

株式会社ホクシンエレクトロニクスは、主に電話などの通信機器のアンテナやスイッチなどの電気電子部品を製造する企業として1991年に設立された。現在の代表・佐藤宗樹さんは父から12年ほど前に受け継いだ2代目だ。設立当初はコードレスホンや海外向け製品のアンテナなどの製造を受注していたが、次第にPHSや携帯電話が普及。時流に乗って業績は好調だった。

「15年ほど前、リーマンショックによって日本の製造業は大打撃を受け、私たちもその影響を受けました。またスマート

フォンが普及し、ほとんどが海外製になるなど、売上が減少する要因に。実は当時、売上全体の65~70%がアンテナや携帯電話部品を占めていて、リスクが大きすぎたんです」。

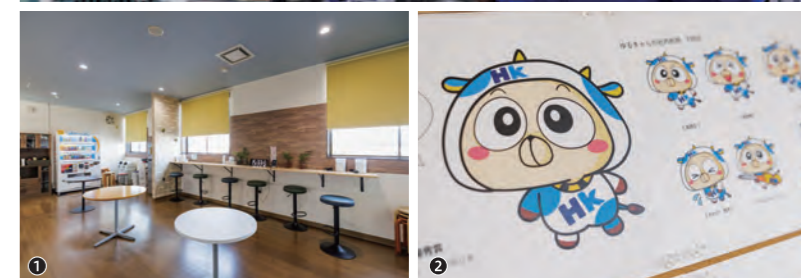
リーマンショックで打撃を受けたことで
開発と受注先のバランスを再考

何か打開策が必要だと考えていた佐藤さんは、運良くリーマンショックが起きる少し前から、医療機器の部品開発に着手していた。

「通信機器はトレンドの移り変わりが激しく、半年ほどでモデルチェンジしてしまいます。一方、医療機器のサイクルは緩やかで、経営基盤としては安心材料に繋がります。医療機器メーカーの方にニーズをヒアリングし、秋田高専の先生にもご協力いただきながら、開発を進めました」。

結果として見事に開発は成功。今後は医療分野を柱の事業としていけるよう、開発を継続したいと意気込む。

「また、営業についても多くの企業とのやりとりを積極的に行っています。おかげで幅広い分野の仕事を受注できるようになり、その甲斐あってコロナによる打撃は最小限に抑えることができたと感じています。現在は、ハブ企業となって協力工場を増やす動きをしています。工場の面積をこれ以上増やすのも現実的ではないと思っていますし、一社だけで利益を囲い込む時代ではないですからね」。



① 広々とした清潔な休憩室は、プロジェクトの活動で整備された。
② 社員から募集し、決まった会社のキャラクターは「うしまるくん」

働く人たちの幸せを大切にしたいから
アイデアを出しやすい環境作り

従業員比率は女性のほうが高いが、幹部は男性中心。女性活躍を推進させるため、5年ほど前から女性社員だけで構成される「ホクシン小町」という委員会を発足した。

「委員会は私の直下において、ダイレクトに女性社員の声を拾えるようにしました。休憩室のリニューアルや女性用トイレの改修も、女性を中心としたプロジェクトチームに任せたり。最近、意見を出してくれるようになってきました」。

また、社員の満足度を数値で測る『幸せデザインサーベイ』という商工中金のサービスを導入し、各部や全体での数値を公表するなどの取組も行っている。堅実な経営方針、そして環境整備も含め、従業員の環境をより良いものにしたいという佐藤さんの思いは、確実に従業員に届いている。



JR羽後牛島駅に隣接する新工場は、2019年に新設。翌年9月には本社機能を新工場に移した。



株式会社
ホクシンエレクトロニクス
代表取締役社長 佐藤 宗樹

〒010-0063
秋田市牛島西1丁目4-10
TEL.018-837-0811 FAX.018-837-0812
<http://www.hokushin-elec.co.jp/>

◎業務内容
各種アンテナ製造、プラスチック成形
【射出成型・注形成型】、半導体装置の製造、
液晶露光装置の製造、各種ハーネスFPCの
加工・検査、液晶バックライト用ランプ組立、
超音波流量計の開発、その他設計開発、
構内請負作業(物流関係)